

令和8年度 研究構想図

武蔵野市立井之頭小学校
研究推進委員会

教育目標

◎心豊かな子 ○すすんで学ぶ子 ○きたえる子

児童の実態

○児童が自発的に話し合い、互いの納得解を探ろうとする姿が見られるようになった。また、場の工夫を重ねたことで、対話に苦手意識のある児童も安心して学び、共に高め合う土壌が整いつつある。

●議論が逸れた際に軌道修正する力や、内容を簡潔にまとめる力には、課題が残る。

○国語・算数・理科に比べ、体育の授業が楽しいと感じている児童が多い。

●怪我の増加や体力の低下が顕著である。仮設校舎という限られた環境下での運動不足が懸念される。

学習指導要領

体育・スポーツの価値を享受し、心身の健康を保持増進する。

武蔵野市教育委員会

「自他の幸せと豊かな社会を実現する 未来の創り手を育む」

○小・中学生の成長や学びを支える土台づくりを大切に
する。

○小・中学生が自分の人生を切り拓いていけるよう、自信と
意欲を育む。

○小・中学生の「〇〇をやりたい!」という主体性を大
切にする。

研究主題

運動の楽しさを味わい、すすんで運動する児童の育成
～授業づくりと環境の工夫を通して～

目指す児童像

低学年

体を動かすことを楽し
み、友達と運動の
心地よさを分かち合
う児童

中学年

自分の伸びを実感し、
友達とコツを見付け合
ったりルールを工夫し
たりする児童

高学年

自分たちの課題を見
付け、協力してより
よい方法を実践しよ
うとする児童

かわせみ

可能な限り多くの時
間、在籍学級の体育
の授業に適応・参加
して、楽しさを実感
できる児童

研究仮説

運動の特性に応じた授業づくりや運動への興味関心を高められるような環境の工夫をすれば、自らすすんで運動する児童が育つであろう。

具体的な手だて

手だて1

授業改善と単元づくり

- ・課題設定の工夫
- ・学習カードの工夫
- ・ICTを活用した可視化と共有

手だて2

仲間と共に学ぶ

- ・学び合いの場の工夫
- ・チームやグルーピングの工夫

手だて3

日常化と環境構成

- ・「運動の遊び場」の設置
- ・委員会活動での日常的な取組
- ・興味を高める掲示物の工夫

・系統性の重視 ・教材・共有の工夫